乙貞

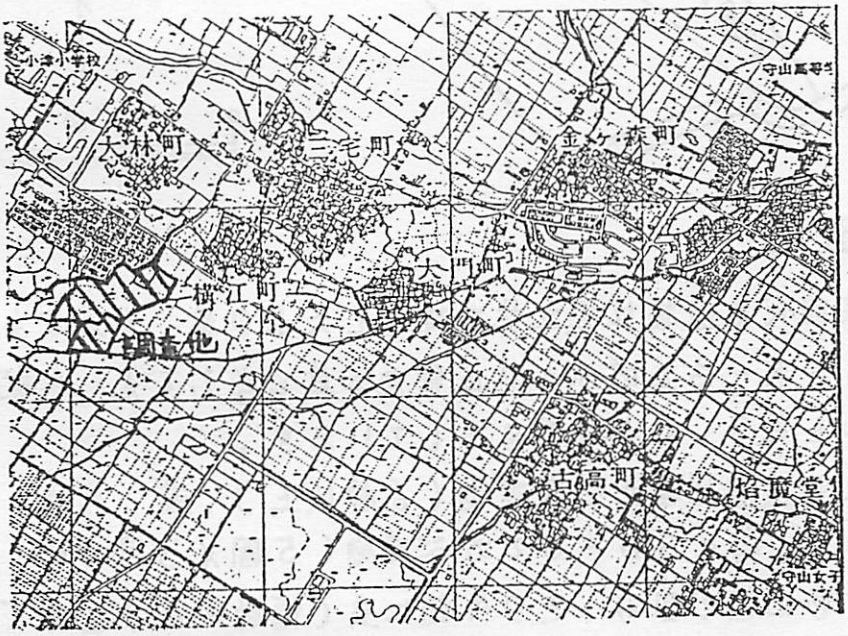
第17号　(通巻第4巻第3号)
1984年　9月　1日　発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎ 0775 85-4397
〒524-02
守山市服部町1318番地

ようやく暑い夏も終わり、そろそろ秋風の吹く季節となってまいりました。今年の夏は暑さが非常にきびしく、調査もいつになくきつかったように思います。その中で調査に従事していただいた方々には、本当に頭の下がる思いです。

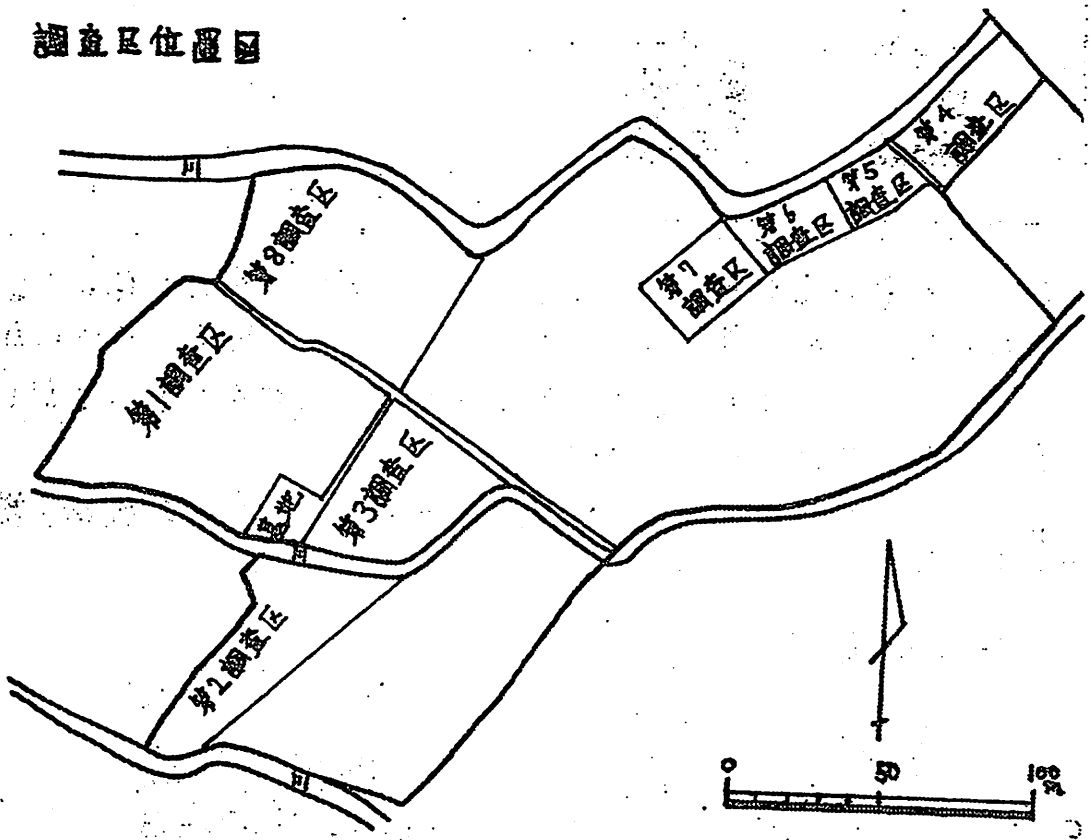
さて、今回の乙貞では、横江遺跡の調査についてその概略を説明したいと思います。

調査位置図



横江遺跡は横江町の西方にひろがる古墳時代と中世(鎌倉時代室町時代)の二時期にわたる集落遺跡です。この遺跡は宅地造成工事にともない、昭和58年から4年計画で調査が進められています。では調査区ごとにその概略を説明しましょう。

調査区位置図



第1調査区

古墳時代の遺構は掘立柱式建物と大小の溝、土坑があります。中でもSK-1と呼ぶ土坑は祭祀土坑と考えられ、供献土器を中心とした多くの土器が出土しています。

中世の遺構は掘立柱式建物（6棟以上）、溝、井戸、土坑があります。特にSB-5と呼ぶ建物（5間×3間）は、北と西をL字形に柵で囲み、その外側に溝（幅約30cm）をめぐらすというもので、この時期の建物構造を知る手がかりとなる資料です。又、SB-5のすぐ西側にある井戸は二時期にわたって構築されたと考えられるもので、中山ではめずらしい例です。ここからは、黒色土器椀、土師皿、刀子など、当時の村の人達が使用した食器や道具が出土しています。

近世の遺構は土坑や墓があります。土坑は1辺約2mの正方

形状を示すもので、おそらくため池のようなものであると考えられます。中世の集落が廃絶した後、この地は田や畑になっていたのでしょう。

第2調査区

古墳時代の遺構は柱穴と土坑があります。土坑は楕円形をしており、長さ4m×3.5m、深さ1.5mもある大きなものです。これは祭祀土坑と考えられ、中からは供献土器を中心とした多量の土器や竪櫛、男根状木製品、石製品（有孔円盤、紡錘車）ミニチュア土器などが出土しています。

中世の遺構は掘立柱式建物（3棟以上）、溝、土坑があります。建物の規模はそれぞれ4間×2間、6間×1間以上、2間×2間です。

第3調査区

古墳時代の遺構は溝、柱穴があります。このうち溝から多量の土器が出土しています。

中世の遺構では掘立柱式建物を1棟検出しています。この建物は東と南を柵で囲み、その外側に幅約1.5mの溝をめぐらすものです。又、溝のすぐ横（西側）では井戸を検出しており（高下駄出土）、当時の建物の構造を知るうえで貴重な資料であるといえます。

第4調査区

古墳時代の溝、土坑、柱穴、それに中世の掘立柱式建物が1棟（2間×2間以上）あります。出土遺物は土師器、須恵器、

黒色土器などがあります。

第5調査区

弥生時代後期から古墳時代にかけての自然流路があります。この自然流路は幅約20mもあり、中から多量の土器や木製品（農耕具・紡織具・容器・建築部材など）、それにくるみやくりなどの自然遺物が出土しています。又、ここから縄文時代晩期の土器が出土しており、近くに縄文時代の集落が存在している可能性があります。

第6調査区

中世の掘立柱式建物や井戸、土坑、それに建物を区画すると考えられる溝があります。出土遺物には黒色土器椀・土師皿・鍋・陶器・磁器・石製硯・ミニチュア釜・おろし皿などがあり、当時の生活の一端を物語ってくれます。

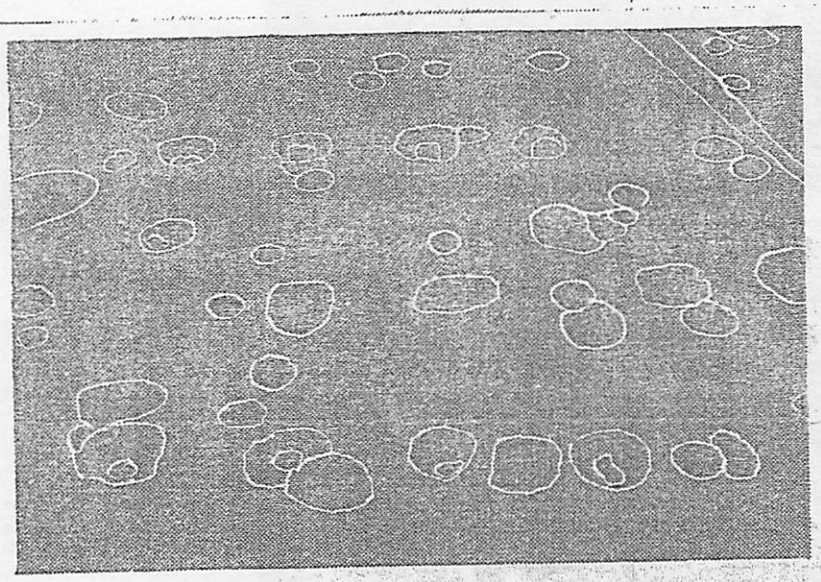
第7調査区

中世の掘立柱式建物（2棟）や溝・土坑があります。溝は幅約1.5mで、1地区同様建物を区画する性格をもつものと考えられます。溝からは黒色土器椀・土師皿・鍋・水瓶・常滑産の水甕などが出土しています。

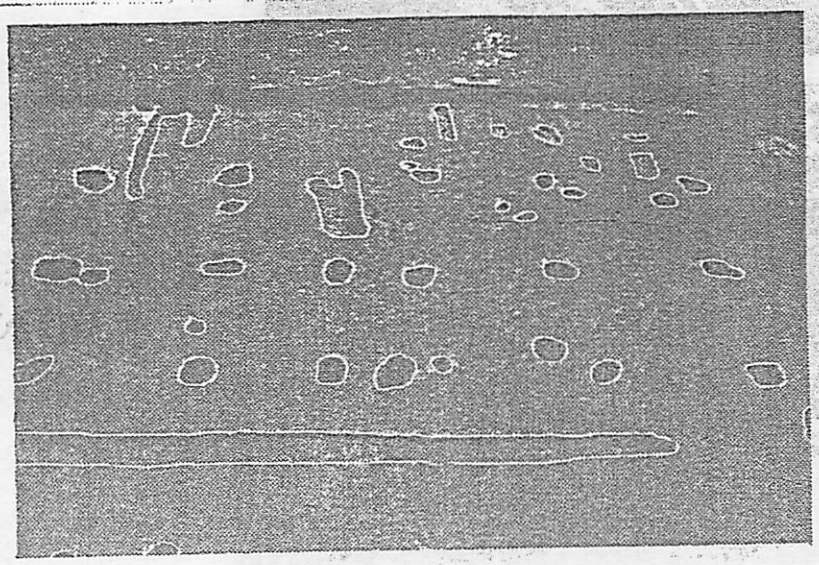
第8調査区

古墳時代の旧河道（川）と土坑、井戸、柱穴があります。旧河道は幅が12m以上もある大きなものです。ここからは多量の土器をはじめ、木製品（鋤・鍬・竪杵・弓・刀など）、石製品

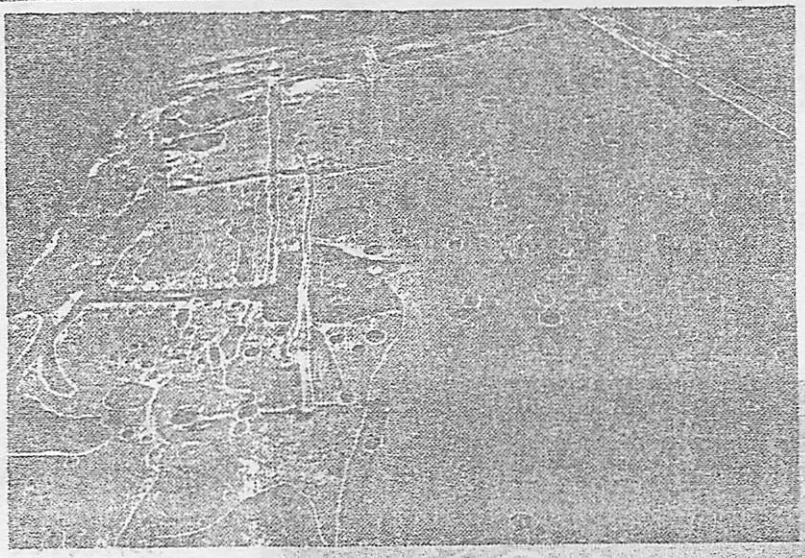
（双孔円盤・紡錘車）、ガラス小玉などが出土しています。又、SK－4と呼ぶ土坑からは多くの土器にまじって製塩土器も出土しており、この地域と海岸地方との交流を示す貴重な資料です。井戸は2基検出しています。いずれもくり抜きの材をはめこんだもので、旧河道内に構築しています。



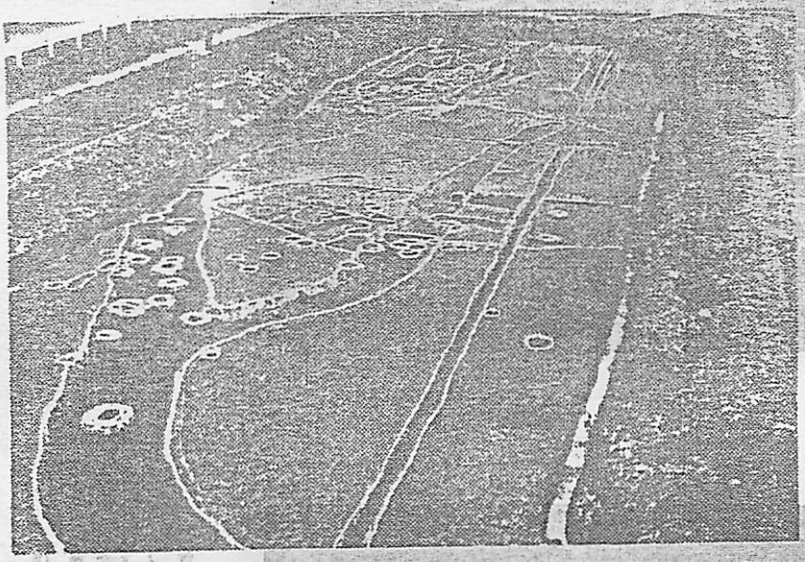
第1調査区
掘立柱式建物
古墳時代



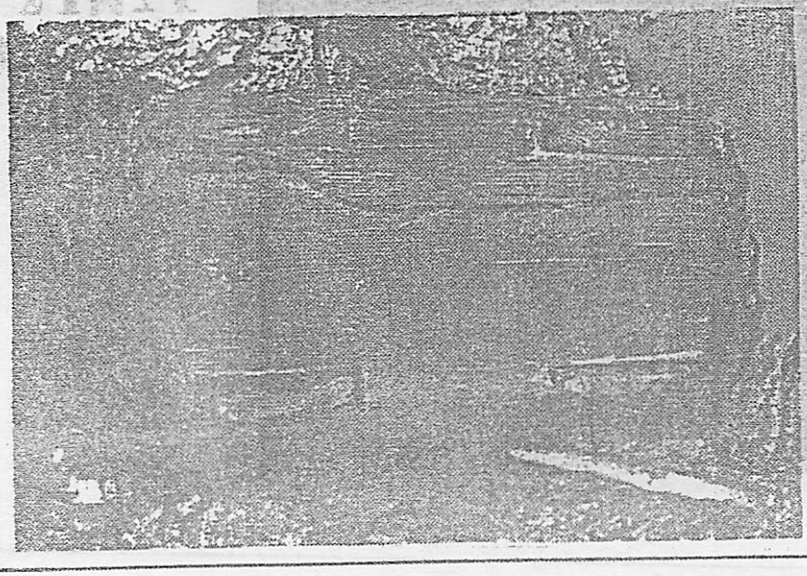
第2調査区
掘立柱式建物
中世



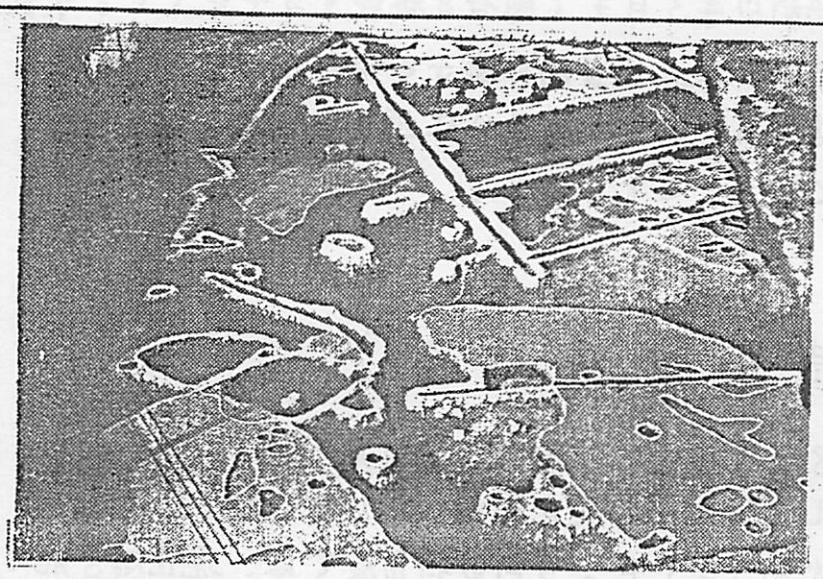
第3調査区
全景



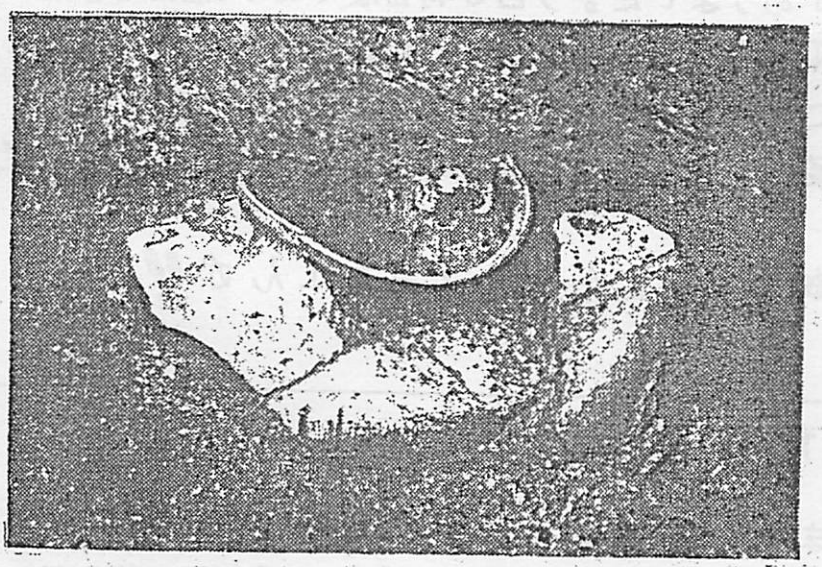
第4調査区
全景



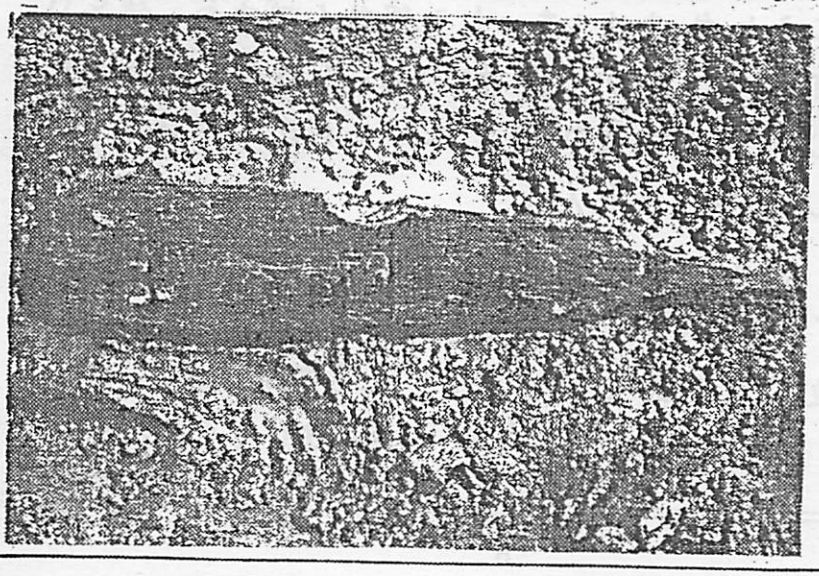
第5調査区
四脚付壺
(自然流路出土)
古墳時代



第6調査区
全景



第7調査区
帯状遺構
中世
(室町時代)



第8調査区
墓柄剣
(旧河道砂土)
古墳時代

横江遺跡は昭和62年3月まで調査を継続する予定です。今後調査が進めば、今まで以上に当時の様子が明らかになってくると思います。それは守山の歴史、あるいは近江の歴史を復元するうえで貴重な資料となることでしょう。

〈夏期特別展終わる〉

8月12日～8月19日まで「身近かな遺跡―守山に眠るいろいろな遺跡」と題して夏期特別展を開催いたしました。この間150人ほどの見学者がありました。今回の特別展では、現在知られている市内の遺跡の紹介を行いましたが、新ためて守山が埋蔵文化財の豊庫であることを実感された方も多かったかと思います。

次回の特別展は、文化財強調月間にあたる11月に開催を予定しております。

皆さん、秋の一日文化財してみませんか!!

――編集後記――

いつのまにか蝉時雨もやみ、こおろぎや鈴虫の声が耳につくようになりました。もう秋なんですね。秋といえば食欲の秋。これから食物のおいしい季節になります。どんどん食べて更の間にへってしまった体重を増やさなければなりません。

さて、今回の表は横江遺跡の調査について報告しましたが、市内ではこの他にも金森東遺跡・吉身西遺跡などで調査が行われています。これら発掘現場の近くを通られましたら、担当者に気軽に声をかけてください。

Mr. M